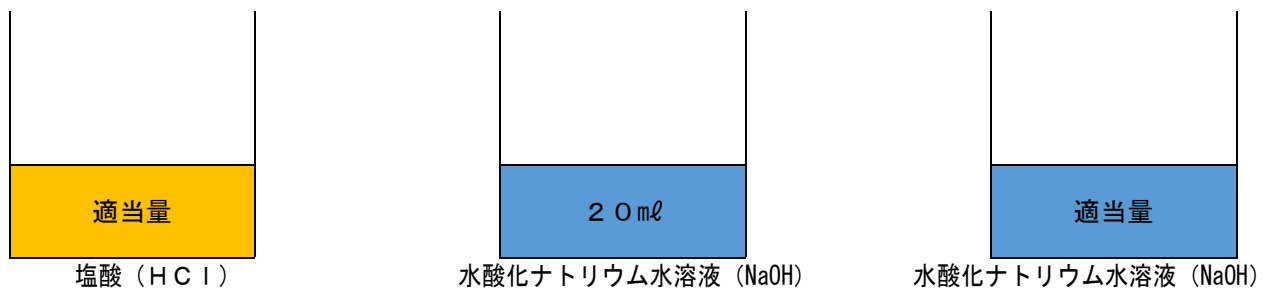


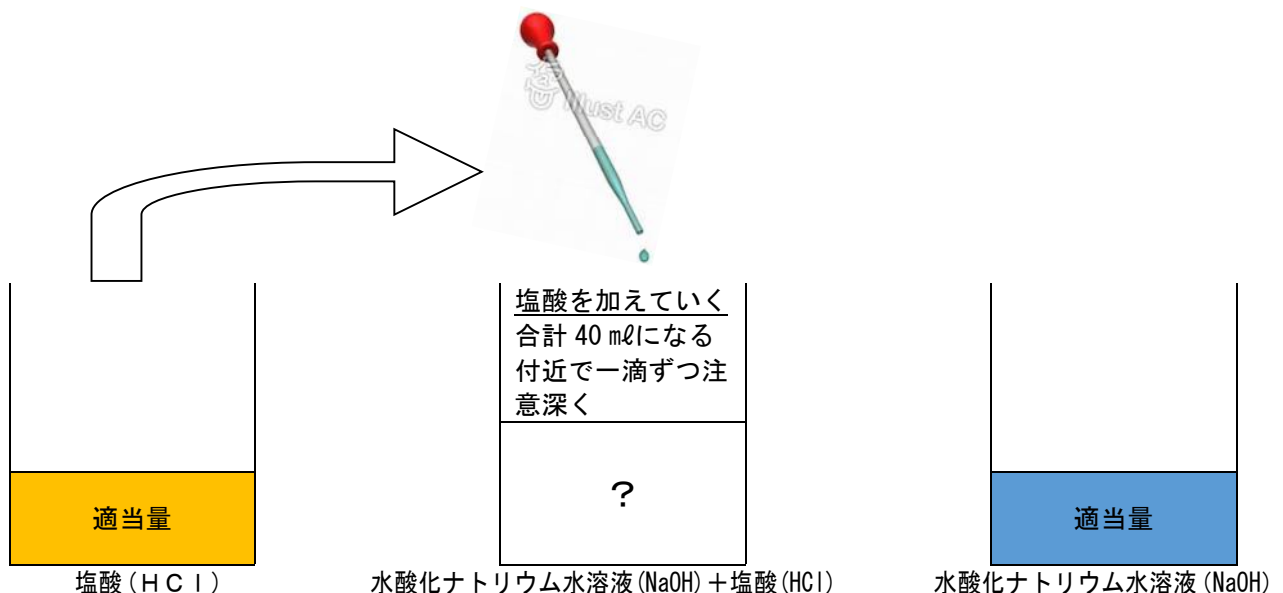
同じ濃さの酸性の水溶液（塩酸 HCl ）とアルカリ性の水溶液（水酸化ナトリウム水溶液 NaOH ）を同じ量ずつ混ぜると本当に中性になるのかどうか確かめます。

《実験の仕方》

- 1 目の前にビーカーが3つあります。入っている水溶液とその量は以下のとおりです。また、それぞれにBTB溶液を数滴たらしてあるので、それぞれに色がついています。

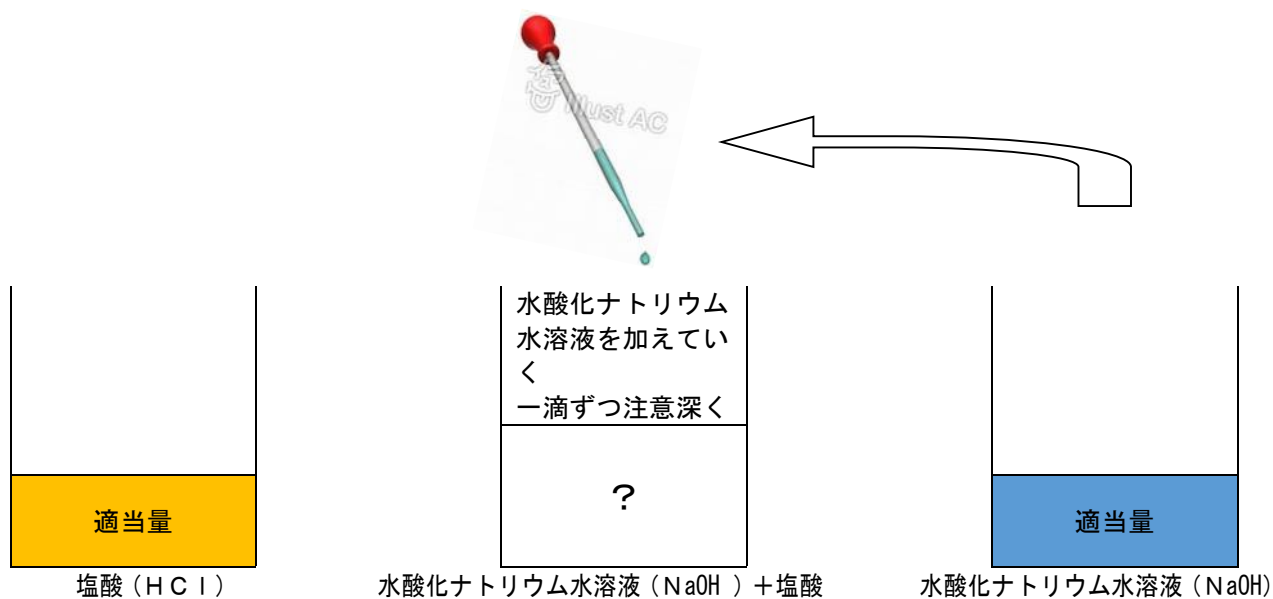


- 2 塩酸をスポイトで取り、20ml入りの水酸化ナトリウム水溶液に合計40mlとなるように加えていきます。



- 「同じ濃さの水溶液を同じ量ずつ混ぜる」ことがポイントです。最初はだたんにいれてもだいじょうぶですが、めもりが、40ml近くになったら慎重に「一滴たらして様子を見て・・・また一滴垂らして様子を見て・・・」色の変化の様子を観察しながら実験を進めます。一滴でも多く垂らしてしまうと期待する結果とはちがってしまいます。
- ビーカーの目盛りは正確ではありません。一応の目安として実験を進めること。

- 3 「塩酸を入れすぎた！」と思ったときは、今度は、水酸化ナトリウム液を一滴ずつたらしして色の変化の様子を同じように観察します。



- 水酸化ナトリウム水溶液 (NaOH) 用と塩酸用、ピペット (スポイト) は使い分けること。

しつこいですが、

同じ量ぐらいになったら、一滴たらし様子を見て・・・また一滴垂らして様子を見て・・・色の変化の様子を観察しながら慎重に実験を進めてください。